

オープンAPIへの取組みについて

株式会社千葉銀行 参与
兼 T & I イノベーションセンター株式会社 代表取締役会長
森本 昌雄

2018年6月13日

【森本 昌雄 略歴】

- 1980年（S55） 入行
- 2005年（H17） システム部長
- 2009年（H21） 執行役員システム部長
- 2010年（H22） 取締役執行役員（事務・システム担当）
（＊TSUBASAプロジェクト責任者）
- 2011年（H23） 取締役常務執行役員（事務・システム担当）
- 2016年（H28） 取締役退任、参与
（＊フィンテック・システム共同化担当参与）
- 2016年（H28） T&Iイノベーションセンター代表取締役会長
（＊フィンテック関連の調査・研究、企画・提案を主要業務）

会社概要



企業名	T&Iイノベーションセンター株式会社
代表者	代表取締役会長 森本 昌雄
所在地	東京都中央区日本橋室町1丁目5番5号 室町ちばぎん三井ビルディング15階
資本金	1億円
株主構成	千葉銀行40%、第四銀行10%、中国銀行10% 伊予銀行10%、東邦銀行10%、北洋銀行10%、日本アイ・ビー・エム10%
設立日	2016年7月1日
事業内容	フィンテックの調査・研究、フィンテックを活用した金融サービスの企画・開発等

沿革

2015年10月	TSUBASA金融システム高度化アライアンス発足 (加盟行：千葉銀行、第四銀行、中国銀行)
2016年3月	TSUBASA金融システム高度化アライアンスに3行が加盟 (加盟行：伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行)
2016年7月	TSUBASAアライアンス6行と日本アイ・ビー・エムの共同出資で会社設立

フィンテックに関する調査・研究

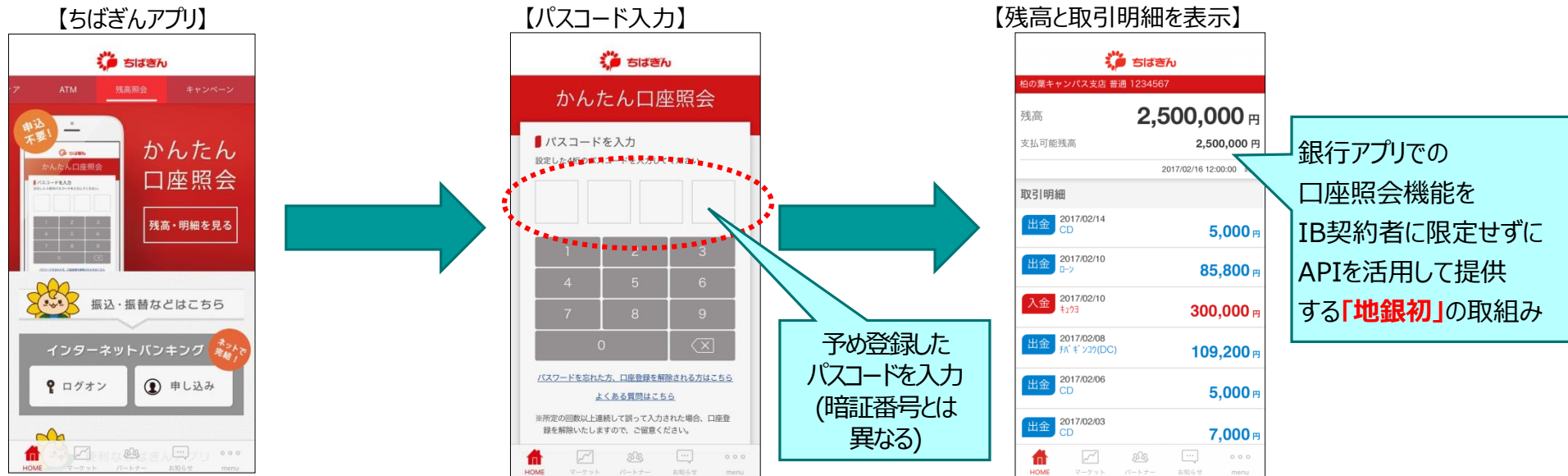


フィンテックを活用した金融サービスの企画・開発・販売業務



フィンテックベンチャーのアプリ開発業者「ヤプリー」と協働で、銀行サービスをアプリで提供

- インターネットバンキング(IB)共同センターが提供する参照系APIを活用し、セキュリティを確保しながら、キャッシュカード保有者向けに「かんたん口座照会」機能をスピード感を持って提供。
- API接続のノウハウは習得できたが、オープンAPIを見据えると、**システム自由度の低さを痛感。**



【比較】

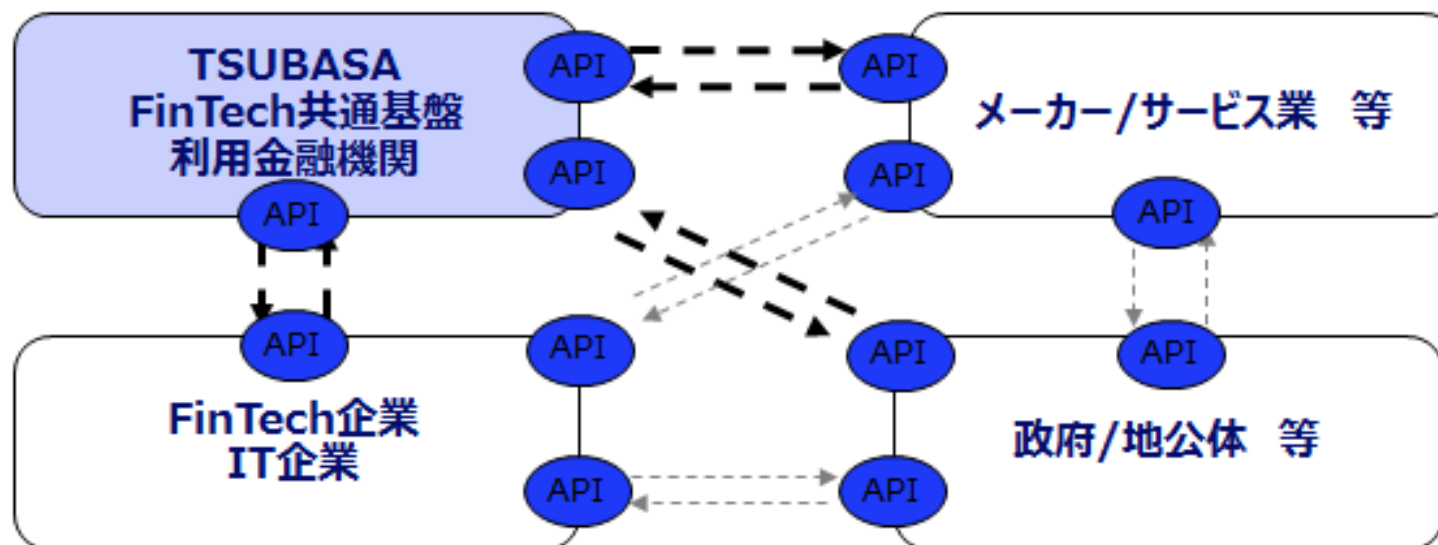
	I B 共同センター	TSUBASA FinTech共通基盤
概要	IB共同センターが提供するAPIを利用	行内と外部、行内システム層にAPI連携基盤を構築
システム自由度	× IB等に限定	○ 銀行が自由に用途を決められる
コスト	○	×
導入にかかる期間	○ 短い	× 長い

オープンAPI対応によりオープンイノベーションを促進

- フィンテック等の急速な技術進展に伴い、顧客利便性や顧客満足度向上等を目的として、他社・異業種サービスとの連携により付加価値を見出す動きが積極化。
- 銀行が「外部企業と連携し自行サービスと連携」または「外部企業から銀行保有データの連携」を求められる場合には、セキュリティを確保したうえで、勘定系システムと連携するインターフェースが必要。



TSUBASA FinTech共通基盤の構築により、金融分野に限らず、様々な事業者間で価値のある情報連携が可能な**生態系（APIエコシステム）**の形成を目指す。



2018年4月16日

「TSUBASA FinTech共通基盤」による APIおよびフィンテックサービスの提供開始について

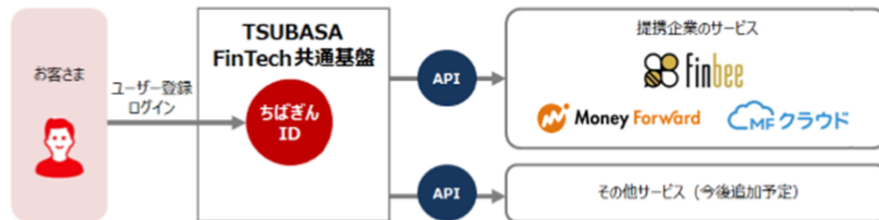
千葉銀行（頭取 佐久間 英利）は、2018年4月23日（月）より、「TSUBASA FinTech共通基盤」によるAPI^{※1}およびフィンテックサービスの提供を開始します。

「TSUBASA FinTech共通基盤」は、「TSUBASAアライアンス」^{※2}参加行とT&Iイノベーションセンター株式会社（代表取締役 森本 昌雄）が共同で構築した、フィンテック企業等の外部事業者が同一の仕様で接続できるオープンAPIのプラットフォームとなっています。

この共通基盤をつうじ、お客さまに提供するフィンテックサービスの第一弾は、株式会社ネストエッグ（代表取締役社長 田村 栄仁）の自動貯金アプリ「finbee（フィンビー）」および株式会社マネーフォワード（代表取締役社長CEO 辻 庸介）の自動家計簿・資産管理サービス「マネーフォワード」・ビジネス向けクラウドサービス「MFクラウドシリーズ」です。なお、自動貯金アプリ「finbee（フィンビー）」とのAPI接続は地方銀行初となります。

API接続にあたっては、事前にご登録いただく「ちばぎんID^{※3}」によりお客さまの認証を行います。インターネットバンキング契約のないお客さまでも、口座情報を各種サービスと安全かつシームレスに連携することができるため、今後はより多くのお客さまにさまざまなフィンテックサービスをご利用いただけるようになります。

<TSUBASA FinTech共通基盤をつうじたフィンテックサービスご利用のイメージ>



※1 APIとは、Application Programming Interfaceの略。お客さまの同意に基づいて銀行等のシステムに外部から接続して安全に情報を取得できるようにする仕組みで、その仕様等をフィンテック企業等の外部事業者に公開することを「オープンAPI」といいます。

※2 千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行、北越銀行の7行が参加する地銀広域連携の枠組みです。

※3 インターネットで提供されるサービスを共通のIDでご利用いただくための仕組みです。

以上

2018年3月16日

武蔵野銀行及びT&Iイノベーションセンター株式会社との API活用に関する業務提携について ～「千葉・武蔵野アライアンス」提携施策～

千葉銀行（頭取 佐久間 英利）と武蔵野銀行（頭取 加藤 喜久雄）は、「千葉・武蔵野アライアンス」に基づく提携施策として、2018年3月15日（木）、T&Iイノベーションセンター株式会社（代表取締役 森本 昌雄、以下「T&I」）とAPI活用に関する業務提携について合意しました。

現在、T&Iが開発を進めているAPI基盤「TSUBASA FinTech共通基盤」は、「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」[※]加盟行以外の金融機関にも幅広くご利用いただけるプラットフォームとなっており、今回の業務提携がその初めてのケースとなります。

今回の業務提携では、フィンテック企業との連携など「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用した新たなサービスの提供に向け相互に協力していくとともに、それぞれが有する知見・人材を集結・活用し、さらなる銀行業務の革新および顧客利便性の向上を目指してまいります。具体的な業務提携の範囲は下記のとおりです。

記

- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用したユースケースの検討
- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用した新サービスの開発
- 「TSUBASA FinTech共通基盤」を活用するためのノウハウ・情報の共有、技術支援

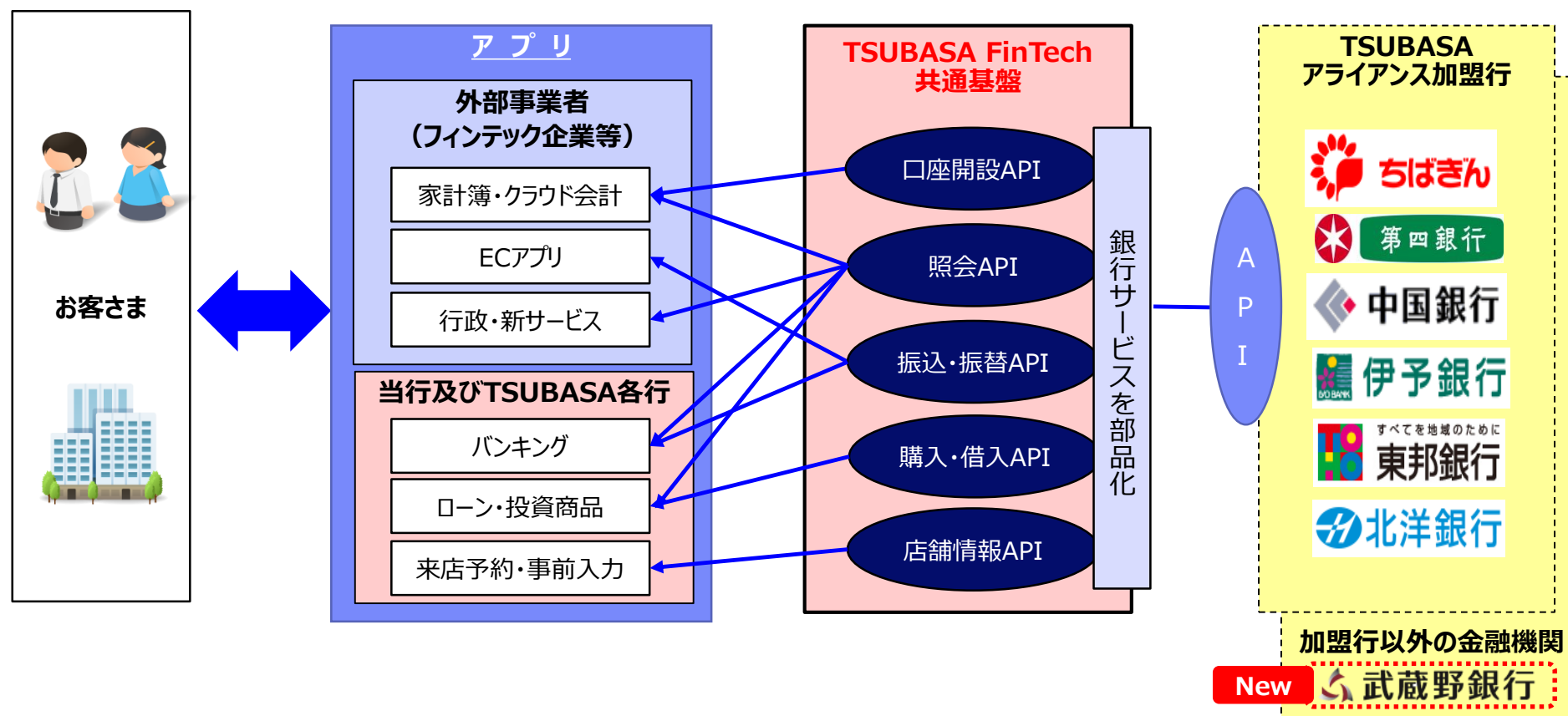
※フィンテックをはじめ先進的なIT技術を調査・研究するために発足した枠組みで、現在、千葉銀行、第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行、北洋銀行の6行が加盟しています。

以上

オープンAPIに対応した「TSUBASA FinTech共通基盤」の構築 ～2017年5月公表～

システム自由度が高いAPI共通基盤の構築

- API共通基盤を構築し、銀行法改正に伴う努力義務化への対応を行うとともに、外部企業との接続によるサービスの多様化や行内開発のスピードアップ・コスト削減を目指します。
- また、本共通基盤は、TSUBASAアライアンス加盟行のみならず、幅広い金融機関にご利用いただけるプラットフォーム化を図ります。



End of File